

在宅医療・介護連携推進協議会	協議資料
令和6年11月22日	
市役所302会議室	

令和6年度 第3回
立川市在宅医療・介護連携推進協議会
協 議 資 料

令和6年11月22日（金）

立川市 保健医療部 高齢福祉課

報告事項①

広報たちかわ 10 月 10 日号について	
内容	<p>「住み慣れた立川でこれからの 0 次予防を」</p> <p>イベント周知</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域福祉市民フォーラム「知って得する ACP」・ 認知症を知ろう・学ぼう・歩もう・ こはるのくすり箱 <p>*その他、主な掲載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ かかりつけ医によるもの忘れ相談・ 出張暮らしの保健室・ 体操をしたい方々を応援します・ 介護保険・高齢者のサービスに関する相談窓口の紹介 <p>※別紙①参照</p>
次号 発行予定	次回の在宅医療・介護連携推進特集の掲載は、広報たちかわの見直しを含め、現在調整・検討中です。

報告事項②

令和6年度 医療と介護の連携強化に関する多職種研修事業に関して				
目的	高齢者を支える医療職及び介護職が互いの制度や知識を理解するとともに、それぞれの課題について共通認識を深め、医療と介護が連携したサービス提供がスムーズに行える。			
対象者	立川市に所在する事業所等に所属する医療介護関係職種等 (医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員、ヘルパー、地域包括支援センター、行政等)			
委託先	一般社団法人 立川市医師会			
開催日				
		日付	場所	
	1	9月11日(水)	立川市役所 302 会議室	能登地震救援活動より報告
	2	10月30日(水)	立川市役所 302 会議室	能登地震救援活動より報告
	3	12月9日(月)	立川市役所 302 会議室	(予定) 災害時の1.5次避難所等について(多摩立川保健所所長)等
4	1月15日(水)	立川市役所 101 会議室	未定	
開催時間はすべて 18:30~20:00				

報告事項③

医療と介護の連携強化に関する多職種研修事業 2回目までの報告	
1回目：令和6年9月11日(水)	
テーマ	能登地震救援活動より報告
内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>能登地震救援活動より報告</p> <p>災害医療センター救命救急科部長 長谷川栄寿 様</p> <p>災害医療センター救命科医師 高田浩明 様</p> <p>『救急期(発災から1週間まで)』</p> <p>災害医療センター救命科医師 関聡志 様</p> <p>災害医療センター救命科医師 小山智士 様</p> <p>災害医療センター診療看護師 山本宏一 様</p> <p>災害医療センター診療看護師 曹路地重蔵 様</p> </div> <p>参加人数：50人</p> <p>職種：医師2人、歯科医師3人、薬剤師7人、理学療法士1名 看護師13人、介護支援専門員11人、社会福祉士1名 施設管理者・施設職員4人、訪問介護員1人、行政職員7人</p>
アンケート結果 (一部抜粋)	<p>①災害に関して気を付けていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停電や浸水などに対して予め会社としてマニュアルを作成しており、緊急時の対応を薬局内で共有している。 ・事業所で月のはじめに利用者の緊急性が高い順位を確認。緊急性の高い方は安否確認を手分けして行う。情報を常に更新し最新のものにする。 ・緊急連絡網整備、利用者(要配慮者)の安全確保、災害情報の収集共有。 ・数日分の非常食の備蓄、会社の中でのBCP、店舗の中でのBCPマニュアルがある。 ・地域の共同防災訓練に地域包括支援センターとして参加しており、今回の講義でも重要とされていた顔の見える関係づくりの機会としている。 <p>②感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援事業所として日頃から緊急連絡先の把握は必須としているが、具体的な訓練等には中々繋がっていない現状。有事には支援側も被災していることが予想されより平時からの備え・準備の重要性を実感した。 ・災害初期の混乱する時期にできるだけ必要なことに集中できるように、個人や地域の防災力を維持向上していく必要があると改めて感じた。

2回目：令和6年10月30日(水)	
テーマ	能登地震救援活動より報告
内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>能登地震救援活動より報告</p> <p>『災害 多職種シュミレーション』</p> <p>『避難所の実際』</p> <p>『能登半島地震における物資支援の現状と課題』</p> <p>『急性期以降の災害対応まとめ』</p> <p>災害医療センター救命救急科部長 長谷川栄寿 様</p> <p>災害医療センター救命科医師 高田浩明 様</p> <p>災害医療センター救命科医師 辛紀宗 様</p> <p>災害医療センター診療看護師 高以良仁 様</p> <p>災害医療センター診療看護師 山本宏一 様</p> </div> <p>参加人数：56人</p> <p>職種：医師4人、歯科医師3人、薬剤師6人、理学療法士1名 看護師15人、介護支援専門員14人、社会福祉士1名 施設管理者・施設職員4人、訪問介護員1人、行政職員7人</p>
アンケート結果 (一部抜粋)	※アンケート結果は当日別紙資料にてお伝えいたします。

報告事項④

地域福祉市民フォーラム、認知症セミナー 報告

地域福祉市民フォーラムの開催に合わせ、下記関連セミナーを実施。
また、アイムホームギャラリーにて「ふくしのお仕事パネル展」を同時開催した。

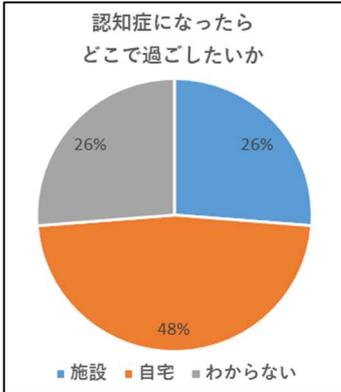
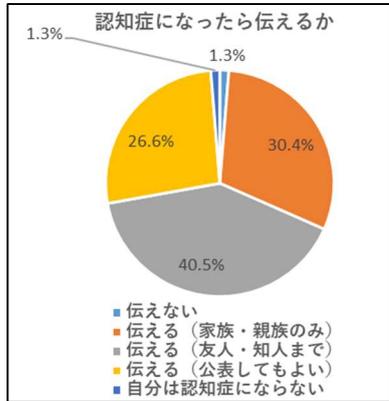
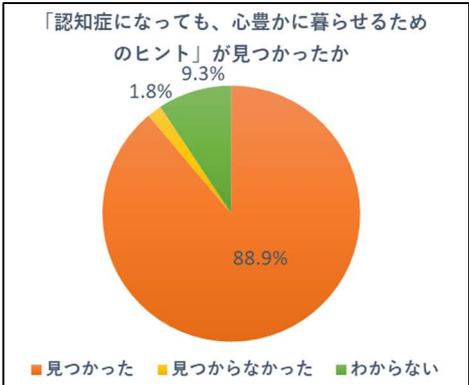
10月23日(水) 13時30分～16時	10月23日(水) 14時～15時30分	10月24日(木) 14時～16時	10月26日(土) 13時30分～16時
認知症セミナー	補聴器セミナー	ふくしのお仕事 セミナー	地域福祉市民 フォーラム
10月21日(月)～25日(金) ふくしのお仕事パネル展			

■参加人数：補聴器セミナー9人、ふくしのお仕事セミナー5人

(1)地域福祉市民フォーラム

テーマ	知って得するACP ～縁起でもない話をしましよ～
内容	<p>日時：令和6年10月26日（土曜日）13時30分～16時 場所：女性総合センター・アイムホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基調講演「知って得するACP ～縁起でもない話をしましよ～」 立川市在宅医療・介護連携推進協議会会長 立川在宅ケアクリニック院長 荘司輝昭 様 ●シンポジウム「最期の迎え方」について 進行役：立川市社会福祉協議会 総合相談支援課長 山本繁樹 様 登壇者：ヒューマンライフケア立川の宿 管理者 齋藤真理子 様 ライブラリーデイサービスセンター 所長 吉崎グレイス 様 家族当事者 福田禮子 様 <p>共催：立川市・立川市社会福祉協議会・立川市地域包括支援センター 立川市福祉相談センター 参加人数：156人</p>
アンケート 結果 (一部抜粋)	<p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話をする事が大事であることを学んだ。ACPについて、自分の事として捉える事を気付いた時に口に出していきたいと思った。 ・ACPについて、今から出来ることや身近に考えるきっかけになり、とても勉強になった。 ・講演者の方々の熱意や活動状況を良く理解できた。自分の行く末について、主体的に考え、行動し、家族とのコミュニケーションを良好な状態にしておきたいと強く思った。 ・ACPがよく分かり、母の介護についてとてもためになった。今後の方向性がはっきりした。母の気持ちに寄り添って、最期を迎えさせてあげたい。

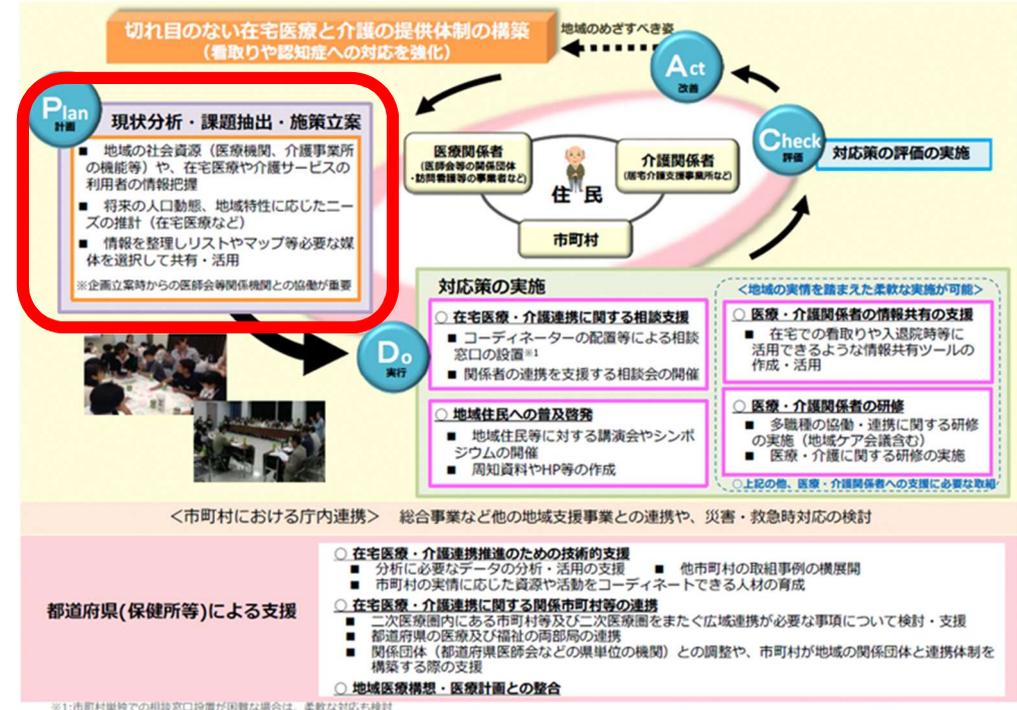
(2)認知症セミナー	
テーマ	認知症になっても、心豊かに暮らせるためのヒント
内容	<p>日時：令和6年10月23日（水曜日）13時30分～16時</p> <p>場所：女性総合センター・アイムホール</p> <p>●第1部 当事者から「認知症と私とこれから」 かもしたまこと 様 ・ 藤島岳彦 様</p> <p>●第2部 家族から「父（認知症専門医 長谷川和夫）との対談」 ～気持ちを伝え合うケア・暮らしの中で学んだこと～ 南高まり 様</p> <p>参加人数：134人</p>
アンケート結果 (一部抜粋)	<p>①「認知症になっても、心豊かに暮らせるためのヒント」が見つかったか 見つかった48人 見つからなかった1人 わからない5人</p> <p>②認知症になったら人に伝えるか 伝えない1人 伝える(家族・親族のみ)24人 伝える(友人・知人まで)32人 伝える(公表してもよい)21人 自分は認知症にならない1人</p> <p>③認知症になったらどこで過ごしたいか 施設21人、自宅38人、わからない21人</p> <p>④感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院への診断に行くことがいかに早く行かなければならないか、重要であることが分かった。 ・認知症になってもあきらめないで普通の生活をしていることがすばらしい。認知症になっても心が判るので、周りの人が承知して付き合いあげたい。 ・将来医療職として働きたいと考える私にとって「できない」ではなく「やりにくくなった」という視点を持って接したいと思った。 ・素晴らしい企画だった。高齢者の認知症の方が多いだろうからもっとこういうセミナーを開いてほしい。



「在宅医療・介護資源マップ」について

立川市では国が掲げた在宅医療・介護連携推進事業の事業項目である「地域の医療・介護の資源の把握」の取り組みとして、平成29年度に医療・介護事業所へアンケート調査を行い、「在宅医療・介護資源マップ」を作成して、立川市ホームページに公開した。令和7年度より、官民連携の一環としてカシオ計算機株式会社が提供している「立川市地域包括ケアサイト Ayamu（アヤム）」へ情報を移行し、提供予定。

地域包括ケアシステムの実現に向けた第8期介護保険事業計画期間からの在宅医療・介護連携推進事業の在り方



経緯

経過

今後の予定

- 平成29年度
紙版作成。65歳以上の市民がいる世帯へ全戸郵送。
窓口・イベント配布実施。電子版を市ホームページ上に掲載。
- 平成30年度
立川市・昭島市・武蔵村山市3市共用の運営となり電子版の画面が変化。
- 令和4年度
3師会（医師・歯科医師・薬剤師）の情報を追加。

「立川市地域包括ケアサイト Ayamu（アヤム）」への情報掲載に向け、現在 Ayamu（アヤム）に掲載中の情報やカテゴリー等を整理。
令和6年度中に、医師、歯科、薬局、訪問看護ステーション、介護保険サービス事業所へ掲載意向を確認の上、アンケートを依頼。令和7年度より「立川市地域包括ケアサイト Ayamu（アヤム）」への在宅医療・介護資源情報を掲載開始する。
※詳細は協議会当日に配布を配布する。

報告事項⑥

認知症あんしんガイドブック（認知症ケアパス）改定に関して	
概要	<p>目的：認知症の疑いから発症、その進行とともに変化していく状態に応じて、どのような医療や介護などの支援を受ければよいか等、おおまかな目安がわかる。</p> <p>作成経過：平成 30 年度に第 1 版作成、令和 3 年度第 2 版作成、令和 6 年度第 3 版作成（3 年ごとに改定している）</p> <p>ページ数：全 32 ページ</p> <p>作成部数：9,000 部（予定）（令和 7 年度から令和 9 年度の 3 か年で使用）</p> <p>第 3 版配布時期：令和 7 年 4 月予定</p> <p>配布先：市役所窓口、地域包括支援センター、福祉相談センター、認知症疾患医療センター、市内薬局等</p>
改定にあたり	<p>行政職員、認知症地域支援推進員にて検討会を開き、関係機関にご意見をいただきながら内容を検討している。</p>
主な変更内容	<ul style="list-style-type: none"> ・記事のレイアウトの順番を入れ替えた。 （予防からの順番にした、市の事業を関連するページに盛り込んだ等） <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">新規ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P-25 オレンジドア@たちかわ ・P-26, 27 本人発信（オレンジドア@たちかわ参加者にメッセージを募り、掲載予定。認知症基本法・認知症ポジティブの内容を盛り込む。） ・P-29 チームオレンジ <p>※改定中の認知症あんしんガイドブックの詳細は、協議会当日に配布予定。</p>